

令和3年9月13日

一般社団法人和歌山県病院薬剤師会  
会長 篝 忠宏 様

和歌山県製薬協会 会長 高橋 邦夫



「和医大薬学部の先生方による県内企業・研究機関向け定期セミナー（第1回）」  
開催のご案内

初秋の候、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、当協会の運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度、今年4月に開学した和医大薬学部の先生方による「県内企業・研究機関向け定期セミナー（WEBセミナー）」を開催する運びとなりましたので、お知らせいたします。

今年度は、薬学部の各研究室の研究内容等についてご説明いただく予定です。

第1回目のセミナーは、薬学部・病態解析学研究室 長野一也先生と、薬学部 生薬・天然物化学研究室 田村 理先生にご講演いただきます。

※Microsoft Teams による WEB セミナーです。

パソコン、WEB カメラ、インターネット環境等については、各自でご準備ください。

記

- |        |  |
|--------|--|
| 1 日 時  | 令和3年10月6日（水）15：00～ 約1時間程度  |
| 2 内 容  | 「医療費抑制の切り札と期待される機能性食品の開発戦略の構築と未病の制御」<br>講師 長野 一也 氏（和歌山県立医科大学・薬学部・病態解析学研究室教授）<br>「自然界に潜んでいる、人類にとって有用な化合物を探し出して利用する」<br>講師 田村 理 氏（和歌山県立医科大学 薬学部 生薬・天然物化学研究室教授） |
| 3 申込期限 | 令和3年9月30日（木）   |
| 4 参加費  | 無料   |
| 5 申込方法 | 別紙「申込様式」にて、お申し込みください。  |
| 6 お問合せ | 和歌山県製薬協会事務局 岡井<br>E-mail : info@wakayama-seiyaku.jp<br>電話 : 073-441-2661   |

申込様式

和歌山県製薬協会事務局 岡井あて mail : [info@wakayama-seiyaku.jp](mailto:info@wakayama-seiyaku.jp) FAX : 073-433-7118

「和医大薬学部の先生方による県内企業・研究機関向け定期セミナー（第1回）」

（10/6（水）15：00開催）参加申込

会社名	
職氏名	
電話番号	
メールアドレス ※必ずご記入ください	

**◎参加を希望される方**

- ・WEB 会議ソフト Microsoft Teams の操作が可能な方。
- ・お申込み後に、ご記入いただいたメールアドレスあて、視聴用 URL をお知らせします。
- ・パソコン、WEB カメラ、インターネット環境等については、各自ご準備ください。
- ・あらかじめ Microsoft Teams のアプリをダウンロードしておいてください。

※起動すると「どの方法で Teams 会議に参加しますか？」という画面が出て

きますので、『Teams アプリを開く』を選択してください。

### 【演題名】

自然界に潜んでいる、人類にとって有用な化合物を探し出して利用する

### 【演者】

和歌山県立医科大学 薬学部 生薬・天然物化学研究室 教授 田村 理

### 【要旨】

我々は、自然界に存在する動植物、細菌、鉱物などから有用な化合物を探し出すとともに、医薬品や香料など人々が実際に利用できる形へ展開する研究を行っています。例えば、何らかの作用を示す粗抽出物から、実際にその作用を引き起こしている化合物本体を単離したり、あるいは化合物に新たな活性を見出したりしています。今回の発表では、生薬“蘇葉”（いわゆるシソ）からアレルギー反応を抑える化合物を見つけたお話や、ある化合物にこれまで知られていなかった血圧を下げる効果を見出したお話などをさせていただきます。

### 【略歴】

1998年3月 大阪大学薬学部製薬化学科卒業  
2003年3月 大阪大学大学院薬学研究科博士後期課程修了 博士（薬学）取得  
2003年4月～ 大阪大学大学院薬学研究科 寄附講座助手（のちに改組により助教）  
2009年4月～ 京都薬科大学 博士研究員  
2010年1月～ JST ERATO 博士研究員 兼 理化学研究所 客員研究員  
2010年4月～ 大阪大学大学院薬学研究科 特任助教  
2012年1月～ 東北大学大学院理学研究科化学専攻 講師  
2016年4月～ 岩手医科大学薬学部 准教授  
2021年4月～ 現職

## 【演題名】

医療費抑制の切り札と期待される機能性食品の開発戦略の構築と未病の制御

## 【演者】

和歌山県立医科大学・薬学部・病態解析学研究室 教授 長野一也

## 【要旨】

少子高齢社会を迎え、医療費が増加しており、発病に至らせないこと＝未病の制御が求められている。その点、日常から口にできる機能性食品は、適したセルフメディケーションツールと期待されている。しかし、機能性表示食品中の成分は、上位5成分で全体の40%を占めるほど、効能と安全性が担保された既存成分を使い回しているに過ぎない。そこで我々は、様々な体の不具合に対応するため、多種多様な機能性成分を取り揃えたいと考えている。本日は、アカデミアの立場から、機能性食品の新規開発戦略など、基盤的研究について紹介し、産学連携の一助となることを祈念している。

## 【略歴】

2005年3月 静岡県立大学薬学部・製薬学科 卒業  
2007年3月 大阪大学大学院薬学研究科・博士前期課程 修了  
2009年3月 大阪大学大学院薬学研究科・博士後期課程 中退(後に博士(薬学)取得)

2007年4月～ 日本学術振興会特別研究員[DC1]  
2009年4月～ (独)医薬基盤研究所・創薬プロテオミクスプロジェクト 研究員  
2010年4月～ (独)医薬基盤研究所・バイオ創薬プロジェクト 研究員  
2015年4月～ 大阪大学大学院薬学研究科・毒性学分野 准教授  
2017年10月～ 大阪大学大学院薬学研究科・応用環境生物学分野 准教授  
2021年4月～ 現職(兼:大阪大学大学院薬学研究科・招聘教授)